

創立128年鳳祭

生田キャンパスで開催 テーマは「新華～新しい彩～」

創立128年鳳祭が11月1日(木)から4日(日)まで、生田キャンパスで開催される。今回のテーマは「新華～新しい彩り～」。

吉川尚利実行委員長(文3)は「テーマには『新しく、進化させたい』という思いを含め、地域の団体に出店を依頼するなど、新たな試みを行っています。『参加する学生が楽しみ、来場してくれた皆さんも笑顔になる』。そんな笑顔の連鎖が起きる学園祭にしたい」と話し、参加を呼びかけている。



▲本番へ急ピッチの追い込み(実行委員会)

【鳳祭イベント情報】

●11月1日(木)

☆開会式 13時開会。4号館前特設ステージで。

☆オープニングセレモニー 13時30分、4号館前特設ステージを出発。有志100人が、キャンパス～向ヶ丘遊園駅間を仮装パレード。

☆前夜祭「くるくる回せ!! 運命のルーレット」14時40分～。4号館前特設ステージ(雨天時は10301号教室)。桜塚やっくんによるライブと学生参加のゲーム。

●11月2日(金)

☆ゲーム板企画「SHINRIN」3日も開催。13時～17時。生田会館前広

場(雨天時は10号館1階ロビー)。実行委員製作のゲームに挑戦し、賞品をゲット。

☆フリーマーケット 3日も開催。10～15時。1号館前芝生(雨天中止)。ゼミ、学生、地域の方などが出店する青空フリーマーケット。

☆シールラリー「新華～思い出に咲く華～」13～17時。新企画。キャンパス内の4カ所でシールを集め、景品と交換しよう。

●11月3日(土)

☆講演「Walk This Way ～過去、現在、これからの成宮寛貴～」12時

開場、13時開演。10301号教室。TV、CM、舞台などで活躍する俳優・成宮寛貴さんが、過去の出演作品やこれからの活動について語る。

※前売券500円。ホームページ、生田正門前で発売(売り切れ次第終了)。当日券の発売はありません。

☆バンド企画「彩色音美」4日も開催。10時30分～16時。図書館分館前ステージ(雨天時第1体育館)。学内外の計10組が熱演。

●11月4日(日)

☆ミス専大コンテスト「flowers ～花のような乙女たち～」10時開場、

11時開演。10301号教室。候補者と推薦人がゲームに挑戦、会場投票により「第7代ミス専大」が誕生する。ゲストは「たいがー:りー」と「響」。

★大型企画★ 各団体が主催する鳳祭の名物企画！

【育友会】喫茶「お休み処・育友」(2～4日、421号教室)

【放送研究会】AREA STATION(2～4日、3号館前広場)

【連合県人会】チロリン村(2～4日、正門前駐車場)、お化け屋敷(2～4日、4号館436号教室)

【サッカー愛好会】フットサル大会(2～4日、北グラウンド)

※ 駐車場がありませんので、自家用車での来場はご遠慮ください。向ヶ丘遊園駅北口から専大行きの小田急バスがございます。

詳しい情報やお問い合わせ:

- ・ ホームページ <http://www.ohtori-senshu.com/>
- ・ eメール ohtori_festival@hotmail.com
- ・ TEL & FAX 044 (900) 7830 鳳祭実行委員会

≪緑地帯≫

「百聞不如一見」

ここ数年、中国宗教史研究の資料集めで、中国の都市や郊外に出かけては、仏寺・道観、山や洞窟・石窟などを歩き回っている。今年の夏休みも山東省・山西省の山や寺院を回ってきた。当然ながらいろいろなことが日本とは違うのであるが、その違い方も、各地方、都会と田舎でこれまた大違いである。

実際、ひとくちに中国と言っても、民族も言語も宗教も風俗も経済状況も非常に多様である上、最近は急激な経済発展ですぐに様子が変わってしまうので、何回か行ってみたところで、「中国」の全体像などよくわからないのである。論理的に考えれば、このことは中国人自身ですらそうであるはずである。「日本」でも「アメリカ」でも「ヨーロッパ」でも「アフリカ」でも、個々の人が語る「○○」というのは一種のフィクションやイメージに類するものといえる。

ただ、中にはなかなか興味深いフィクションやイメージもある。多くの人がそれを共有の基礎として想像をふくらませたり、場合によっては商売に利用したりする。宗教的な伝説は代表的な例である。たとえば道教徒は中国全土に、気につながる聖なる山と洞窟のネットワークが存在するという説を唱えた。有名な仙人が修行した山は聖地であるとともに観光名所として再開発されている。

こうしたことは、語学の授業の合間に話すだけでは、なかなかうまく伝えられない。学生諸君には、語学の基礎が身についたなら、まずは現地を見ることを強く勧めたいと思う。

(学生部)

◀New Ground - 新しい見方<18>▶

「秋」

佐藤宏紀 (法1・ジャーナリズム研究会)

時の流れは早いもので、あっという間に後期の授業の真っ最中だ。教室を見渡すと、いまだに夏休み中の生活リズムから抜け出せない人がいるように見受けられる。学業に対する高いモチベーションを保ち続けるのは難しく、一時的な充電期間に入っているのだろう。しかし、長期間にわたって充電をし続けると過充電を引き起こし、取り返しのつかないことになるので気をつけなければならない。



▲生田キャンパスで

彼らの捲土重来(けんどこちょうらい)を願いつつ、やはり人間は習慣の動物なのだと思う。夏休み中でも勉強を続けた人間は温まったエンジンで、キレイなスタートを切っている。一方、筆者と同じように、夏休みを言葉通りの「休み」と受け止めた人間は、エンジンが冷え切り、遅いスタートになってしまった。努力することを“当たり前”にする習慣の力を、授業内の発言内容などからまざまざと見せつけられた。

これはスポーツや芸術分野など、学術以外のことにも言えるだろう。宮本武蔵が書いた『五輪書』に「千の修行を鍛とし、万の修行を錬とする」という一節がある。武道の達人であると共に、毎日修行を積んだ習慣の達人でもある武蔵ならではの言葉である。また、武蔵は自分をより一層高める良い習慣を見つけ、身につけたからこそ達人として尊敬された。我々も武蔵にあやかり、人生の糧となるような習慣を身につけたいものだ。

読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋。さまざまな秋がある今こそ、達人と呼ばれる一生の習慣を身につける秋(とき)だろう。

《マンガ》

専大オリジナルグッズを作ろう。

(漫画研究同好会・しじま あお 作)

専大オリジナルグッズを作ろう。
作・しじま あお

